



すぐ形には表れないかもしれませんが、将来的に本人の、ひいては日本の活力になるかもしれません。子どもたちの活躍する姿に期待したいですね。

源 キーワードは「子ども」

源 そうですね。会議では、次世代を見据えた長期的な視点が重要という観点から「子ども」がキーワードになりました。会議に女性の委員さんがいたことが大きいと思います。

町長 昨年、ある大学の先生に、寄居町の子もたちはよい目をしていてる。

源 そうですね。会議では、次世代を見据えた長期的な視点が重要という観点から「子ども」がキーワードになりました。会議に女性の委員さんがいたことが大きいと思います。

の方々が子どもたちの安全を見守る活動が行われています。また、文化人も多いので、子どもたちが作った俳句を学校の新聞で広報しているところもありますね。他にも、朝マラソンを毎朝やっています。登校後、10分位走ることを20年続けていっているんです。

源

いい影響を与えています。素晴らしいですね。子どもが生き生きとしている姿は、町にもいい影響を与えてくれますよ。

源 今回提出した提言書を参考にしたい。子どもたちの能力を最大限に引き出すまちづくりを前向きに取り組んでいただければと思います。

提言3 「町民と行政による協働のまちづくり」

協働のまちづくり

町長 それでは次に、提言3について伺います。町民と行政が協働でまちづくりを推進するに当たって、これからの行政の在り方や協働するうえでの留意点などありましたらお聞かせください。

源 協働を進めていくために留意すべきことは、これまでの自治体経営を見直す時期が来ているということですね。

町長 全くそのとおりです。変革が求められています。

源 「住民は顧客ではなく責任ある「主体」」

源 これまで住民は、サービスの受け手だったわけですが、ご存じのとおりニューパブリックマネジメントと言われる「新しい公共経営」では、そこに市場の原理を取り入れて、効率的にサービスを提供するという形で一時注目を浴びましたが、それでもまだ住民はサービスの受け手でした。しかし、住民が顧客ではだめなんですよ。そこで、今出ているのがニューパブリックサービスです。住民は顧客ではなく、責任ある「主体」なんです。地域社会は住民のものなので、自分たちの地域をどうしたいかという意識や、NPOを自分たちで作るなどの、主体としてのかかわり方が重要になってきます。そのとき、行政の役割は、サービスを提供するというよりも、NPOや民間企業などの多様な主体の間に入って、人々の多様な価値観やニーズを公平な視点で調整していくことが求められます。住民の意識の変革ももちろんありますが、行政側の考え方が鍵になりますね。

町長 新しい公共の体制の構築

町長 そうですね。行政にはできないいかかわり方がそこにはあると思います。寄居町では社会福祉協議会を中心に地域支えあいの会を全町的に展開しています。67行政区の区長さんや民生委員さん、福祉委員さん、他にも協力してくださる多くの皆さんのおかげです。週に2・3回希望者に

対して行う配食サービスや救急グッズの配付、定期的に関心会なども活動の一環ですね。孤立死等の地域社会が抱える問題を解決するため有効な取り組みとして、県からも注目を集めています。また、観光クリエーションという観光事業を中心に、観光協会と連携しつつも、時代の先端を行く観光事業を行うNPOを立ち上げていただきました。さらにも協働という観点で運営していく予定です。

今後の町政について

源 現場の意見を聞き、戦略の見直し



町長 町政刷新会議に似たものを感じますね。先生のような町の外の方から見た評価も、冷静に分析するうえでとても重要な位置付けとなります。すべての政策・施策にこれらの評価制度を導入・反映させるのは困難ですので、重点的なものを拾って実践していくことが望ましいですね。関係者と議論を重ねることで、新たな発見につながります。

源 新しい協働の形

源 現場の専門職の方の声は、戦略見直しの肝になります。「新しい協働」の形です。異なる立場の人たちが対話というプロセスを通して、ある種の価値を共有していく。

町長 町政刷新会議に似たものを感じますね。先生のような町の外の方から見た評価も、冷静に分析するうえでとても重要な位置付けとなります。すべての政策・施策にこれらの評価制度を導入・反映させるのは困難ですので、重点的なものを拾って実践していくことが望ましいですね。関係者と議論を重ねることで、新たな発見につながります。

源 現場の問題意識を大切に

源 健康増進によって医療費や介護給付が減るといって、それぞれ別のインパクトですが、着実に成果は上げて

町長 これからもよろしくお願ひします。本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。

源 ありがとうございます。



町長 「連携」と「知恵」ですよ。連携していかないと道が開けない。変化し続ける環境で、スピーディーに対応していく必要があります。古い体質の中にあつたのでは、迅速な対応ができないまま終わってしまう。連

携の中で知恵を出し合って実践する。その総和が全体のポトムアップにつながるかと考えられます。

源 現場です。動いている方々はいろいろと感じていますよ。それ外に出して可視化することが求められます。

町長 現場を担っている方々と共通の目的を持ってコミュニケーションを取り、連携して新たなアイデアを生み出し、それを具現化する。そのための装置をどのように作っていくか

源 少くもそれです。一つ例を挙げさせていただきます。寄居町で平成23年度の秋から始まりました健康づくり・チャレンジポイント事業があります。これはお金をかけないで、一人ひとりの健康づくりを応援する事業となつていて、当初の予想以上の効果を上げています。規模は小さいですが、インパクトプロジェクトとして2年目を迎えることができました。これまで健康福祉課や社会福祉協議会などが行ってきた予防事業を一つのくくりにし、事業に参加した方にはポイントを差し上げる。年間のポイントの合計が100ポイントを超えると記念品を贈呈しています。平成23

源 現場の問題意識を大切に



町長 これからもよろしくお願ひします。本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。